

## 電気通信大学 平成17年度シラバス

授業科目名	独語第二		
英文授業科目名	Elementary German II		
開講年度	2005年度	開講年次	1年次
開講学期	2学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化基礎科目 I I		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	齋藤 智志		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ

<b>【主題および達成目標】</b>
ドイツおよびドイツ語圏の国々の文化や歴史に触れつつ、ドイツ語の基礎的な文法や表現の修得を目指します。独語第一と独語第二が終了すれば、簡単な文章の読み書きができるようになっているはずです。

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
独語第一

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
なし

<b>【教科書等】</b>
教科書：大岩信太郎著『純・初級ドイツ文法（新正書法版）』（同学社） 辞書：辞書は当然必要です。初めて学ぶ言語においては、辞書の引き方も重要な学習事項です。収録語数が5万語以上の独和辞典を選んでください。

【授業内容とその進め方】

扱う文法事項は以下の通りです。1単元を1回から1回半程度で終わらせます。

1. 未来形、話法の助動詞
2. 分離動詞、ZU不定詞
3. 動詞の三基本形、過去人称変化、現在完了形
4. 再帰動詞と再帰代名詞
5. 形容詞の格変化、形容詞の名詞化
6. 比較級と最上級、命令法
7. 関係代名詞
8. 受動態、非人称のES
9. 接続法

文法の解説を終えた単元の問題演習を翌週までの宿題とします。したがって、ほぼ毎週（量はそれほど多くはないはずですが）宿題が出ると考えてください。

また、ドイツおよびドイツ語圏の国々の文化や歴史に関して、学生諸君に発表をしてもらいます。人数が多ければ班を編制し、一月に一人（ないし一班）ぐらいのペースで発表してもらおう予定です（独語第一からの継続です）。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

1. 成績評価：出席を含む平常点（25%）+前期末と後期末のテスト（60%）+発表（15%）
2. 評価基準：1で示した式の合計点が60以上であることを合格の最低基準とします。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けません。質問等は電子メールでも受け付けます。アドレスを知りたい人は、教室で尋ねてください。

【学生へのメッセージ】

大学は「自ら」学ぶ場所です。諸君はその「権利」を得たのです。ジャンルを問わず貪欲に知識を吸収してください。

【その他】